

保護者の皆さまへ

岐阜県立岐阜北高等学校
制服等に関する検討委員会

第2回「制服について考える週間」について

時下、ますますご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。平素は本校の教育に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、標記のとおり、岐阜北高校では「制服について考える週間」を下記のように設けたいと考えております。何卒ご理解・ご了承をよろしくお願いいたします。

記

1. 背景

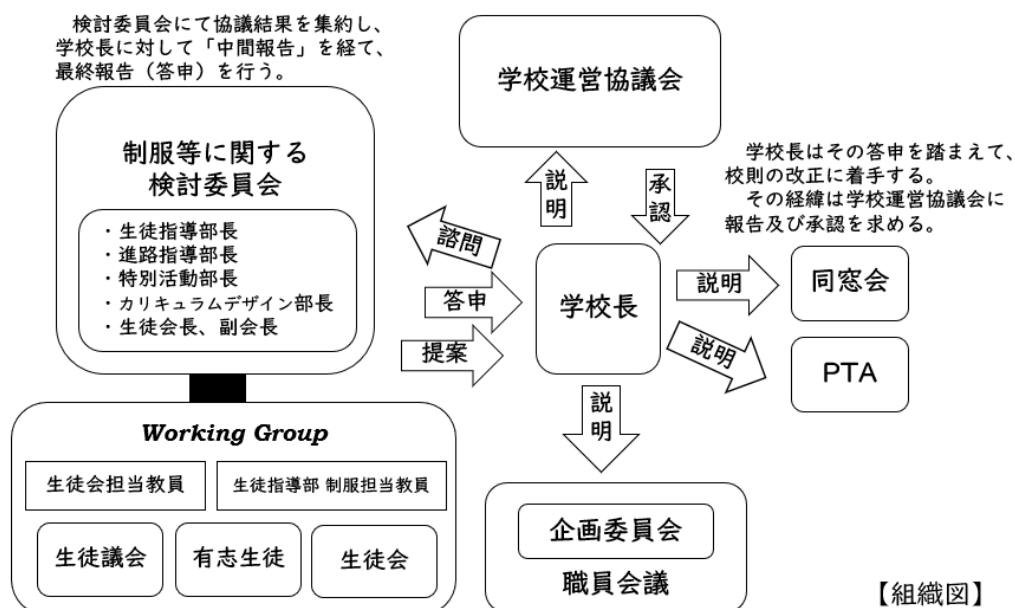
本校では平成30年度に黒タイツ着用許可、令和元年度に靴下の規定の見直しと、服装の校則について生徒の意見を踏まえた改定を行ってきました。昨年度冬季は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、教室内の暖房をしながら換気を徹底する必要性がありました。換気の必要性と防寒の観点から、授業中をはじめ、学校内での防寒着着用を認め、これを機に制服そのものについての在り方を検討してはどうかという声が本校生徒会を中心にあがりました。

生徒議会で「制服について考える週間」を設けるかどうかを諮った結果、賛成人数が過半数を超えたため、実施に至りました（現3・2年生対象に令和3年2月15日（月）から2月26日（金）の2週間）。

その後に実施したアンケート結果から、継続的に制服そのものの在り方についてさらに議論を深めていくこととなり、今年度4月に生徒会だけでなく有志生徒も参加する形で「制服等に関する検討委員会」を発足しました。学校長は、4月22日に本委員会に「高い志とグローバルな視野を持って学ぶ岐阜北高生が、自覚と誇りを持って着ることができ、制服及び服装規定の在り方について」の審議を要請する諮問を行いました。現在、有志生徒を中心としたワーキンググループが、週に1回のペースで検討の具体的な内容について、答申などの形でとりまとめ公表する準備を進めています。

現在、ジェンダーの議論もあり、制服やそれに関わる校則は、生徒が誇りを持って高校生活を送るために、合理性と経済性、機能面や衛生面での配慮が必要であると考えています。

2. 組織図



3. 実施の目的とその理由

今年度は夏季におおよそ2週間の「制服について考える週間」（以下考える週間）を設け、TPO をわきまえた服装を自ら選択し登校できるようにします。この期間を通じて、上級生は再度、1年生は初めて北高生として相応しいと思う服装、あるいは暑さ対策として快適かつ合理的な服装とはどのようなものかを当事者として考え、今後どのような服装規定が必要かを検討する契機としたいと考えております。

4. 期間

令和3年8月25日(水)から北高祭終了まで

5. 内容

上記期間においては、通常の制服でも構いませんし、部活着・私服での登校も可とします。こうすることで、生徒各々が学校生活を送る上でどのような服装が相応しいか考え、選択することができるようにします。ただし、アクセサリ等は認めず、体育時は学校指定のものを着用することとします。また、この期間のために、私服を新調する必要はありません。

6. 制服等検討委員会としての今後の予定【見通し】

- ◆ 7月14日(水) 外部有識者(菅公学生服)との座談会
目的①:外部人材を入れることで、校則等の議論にありがちな「学校 vs 生徒」という構図にしないため。
- ◆ 7月21日(水) 制服等検討委員会ワーキンググループより活動経過報告及び全校へ周知
目的②:全校生徒だけでなく教員にも制服に対する意識を高めてもらい、当事者意識を持ってもらうため。
目的③:生徒会や有志が集まったメンバーだけが動き、「勝手に決まっていた」という構図を生み出すのではなく、「みんなの意見を反映させて」という学校全体の意識を喚起するため。
- ◆ 8月25日(水)から北高祭終了まで:おおよそ2週間「考える週間」
- ◆ 学校祭終了後:第2回「制服について考える」アンケートを実施(対象:全校生徒・保護者・教員)
目的④:生徒が参画すること自体が、これからの民主主義の担い手にとって、貴重な第一歩となるため。
- ◆ 11月 第2回学校運営協議会前:諮問に対して、学校長へ中間報告
➡ 学校運営協議会 ➡ 学校長からのご意見を経て
- ◆ 1月 第3回学校運営協議会前 諮問に対して、学校長へ答申
目的⑤:生徒にとって身近なルールである制服や校則について、納得解を導き出し、合意形成を図るための対話の文化を醸成していくため。